

【学校評価】（別紙「令和２年度学校自己評価」参照）

◇重点目標に対する自己評価

- | | | |
|---|---|----------|
| 1 | 基本的生活習慣の確立 | <u>B</u> |
| | ・ 明るく元気な挨拶の励行、時間厳守、整理整頓に努める。
・ 正しいスマートフォンなどの使い方を指導する。
・ 交通ルールやマナーの徹底など、規範意識の高揚を図る。 | |
| 2 | 基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得 | <u>A</u> |
| | ・ 個性や能力に応じたわかりやすい授業を実践し、生徒一人ひとりの学力を高める
・ 資格取得や各種コンテスト、競技大会への挑戦を通し、生徒の実践力を高めるとともに多くの成功体験から生徒に自信を持たせる。 | |
| 3 | ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進 | <u>A</u> |
| | ・ 工業の特色を生かした地域連携・交流を推進し、地域に根ざし信頼される学校作りに努める。
・ 福祉教育・人権教育をとおした地域・国際貢献活動の推進に努める。 | |
| 4 | 部活動の充実 | <u>B</u> |
| | ・ 自主性を高め、より高い目標に果敢にチャレンジする精神を育てる。
・ 体力の向上と豊かな人間性、さらによりよい人間関係を育成する。 | |
| 5 | 栃工の未来に向けた体制整備 | <u>B</u> |
| | ・ 職員と生徒が一丸となって水害からの復旧を目指す。 | |

◇評価結果に基づく今後の改善方策等

「基本的生活習慣の確立」について、アンケート結果からは改善傾向が見られる。引き続き、教職員の日々の生徒指導、また生徒の基本的生活習慣に対する意識の向上を目指して取り組めたらと考える。欠席・遅刻をしないように心がけている生徒は、前年度よりもさらに増加し、このことが高い出席率につながっていると思われる。また、交通や携帯等のマナー、モラルを守ろうと心がけている生徒も前年度より増加しているが、いまだに守れていない生徒も見られることから、まだまだ意識の向上を図る必要があるように思われる。特に携帯電話の取り扱いについては、友人関係のトラブルや犯罪につながる恐れもあり、本人の意思とは関係なく加害者になってしまう危険性がある。これについては認識が高まっているように見えるが、その対処方法については認識の薄い生徒がまだいるようである。携帯電話の使い方だけでなく、消費者教育やカウンセリング等、生徒への対応をいろいろと考えていく必要があるのではないかと考える。

「基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得」について、前年度と比較して、教育活動の中でまだコロナ禍の影響が残っている。洪水以後の施設の復旧はかなり進んでおり、生徒の学校生活が着実に回復されている。学習面では、生徒の資格等への挑戦が、まるでそれまでの休業期間を取り戻すような様を感じるものであった。生徒の頑張りや教職員の適切な指導が功を奏した。生徒のアンケートの結果からも、資格試験に前向きに取り組んでいる様子が十分うかがえる。洪水の影響があり、資格への挑戦ができない時期があったが、本年度の後期に電気工事士等の検定が復活した。積極的に挑戦することができたことは教育活動してとても大きく、ジュニアマイスター顕彰について、例年程度の結果を得ることができた。

「ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進」について、ものづくり技術支援については、多くの申込をいただくことができた。特にテクノボランティアでは前年度を大きく上回る依頼件数があったが、新型コロナウイルスの影響もありなかなか生徒中心の活動が困難であった。これまでに依頼していない学校からの申込もあり、本校の活動が小中学校より評価されているのではないかと考える。

人権教育に関して、前年度より人権教育指定校として取り組んできた中で、取り組みの成果としてユニバーサルデザインに限らず広く人権教育への意識付けができたと思われる。今後も、日常の教育活動の中で引き続き人権教育に触れる仕掛け作りをしていくべきである。

福祉活動及び国際活動については新型コロナウイルスの影響を受けて実施できなかった面が多かった。一年生の中にはこれらの活動に参加したく本校を志望した生徒もおり、福祉機器製作部での活動など可能な範囲で活動している。これらの生徒が来年以降活躍してくれるこ

とを期待したい。

「部活動の充実」について、新型コロナウイルスの影響で国の緊急事態宣言による休校や各種大会が中止になり、部活動自体も制限され、生徒の活躍の場が無くなり大きな影響を受けた1年であった。また本校は令和元年の台風19号による水害で甚大な被害を受け、復旧工事に時間がかかり、グラウンドやテニスコート、格技場が本格的に使用できたのが夏休み後半になり、思うような活動が望めない環境にあった。このように格技場が復旧工事で使用できず、校内で部活動の活動場所が制限された中で、空手道部が関東大会に出場したことは素晴らしい成果である。その他ソフトテニス部も県大会で団体戦ベスト8の優良な成績を収めている。

文化部の科学技術委員会を中心に、各種大会で入賞している部もおおく、また部活動としての活動だけでなく、課題研究などで「プログラミングコンテスト」などの各種コンテストでも入賞している生徒も多い。

また、「プログラミング出前講座」や「巴波川竹あかり事業」などの地域貢献活動が小学生から大人まで「幅広い人間関係の構築」が図られていると推察される。

「栃工の未来に向けた体制整備」について、年度当初は使用することができなかった校庭や武道場、テニスコートなど順次工事が進み、部活動が再開できるようになったことや、実習の授業も可能な範囲で再開したことから、2・3年生の生徒保護者からは復旧が進んだと感じてもらえていると思われる。一方で教員側から見るとアンケート実施時点ではまだ総合実習棟が建設中であり、実習ができる体制としてまだまだな部分を感じられたと思われる。また、今回の水害を教訓に現状の問題点を見直す機会を作ることができた。集中豪雨に関する危機管理については講師を招いた校内研修を実施した。危機管理マニュアルの見直しや、校舎内の施設の移動など、問題点を解消する動きにもつなげることができた。今後も生徒が不安無く学校生活を送ることができるよう、体制整備を続けることが求められる。

【学校関係者評価】

◇評価結果

「今年度の事業及び成果について」「校内における学校評価結果について」の2点について主に意見をいただき、本校の良い点や改善すべき点など客観的に自校を知ることができた。学校評議員からは下記のような意見があった。

- ・学校における新型コロナ感染症対策により、先生方の業務量増加による負担について危惧している。
- ・全国的にも教職員の精神科受診率がかなり高いと聞いている。また、高校生の自殺率も増加傾向にある。通院による薬治療だけに任せるのではなく、そうした生徒の声に丁寧に耳を傾けていくことも必要ではないだろうか。
- ・学校評価の結果を見ると、各部単位においてしっかりした目標を立て、計画・実行している。また、先を見据えて反省を改善に生かしている取組が随所にみられる。生徒相手は、大変根気のいることですが、先生方にはこれからもがんばってほしいと思う。

◇評価結果に基づく今後の改善方策等

<学校運営に生かされた事例>

- ・教育相談係を中心に、教職員も対象としたSC（スクールカウンセラー）の校内運用方法の改善を行った。